

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成20年11月4日		
		作成部署	建設交通部 河川課		
事業名	広域基幹河川改修事業（補助）	地区名	与謝野町字幾地地内・与謝野町字加悦地内		
概算事業費	2,578百万円	事業期間	平成20年度～平成50年度		
事業概要	過去に浸水被害が発生しており、流下能力が低いことから、河道拡幅および河床掘削による改修を行う。 岩屋川L=800m、加悦奥川L=1,050m				
目指すべき環境像	岩屋川は旧野田川町、加悦奥川は旧加悦町の中心市街地を貫流する河川であり、沿川には多様な自然環境を有し歴史的保全施設等が存在することから周辺環境との調和に配慮した河川改修を行う必要がある。				
関連する公共事業	特になし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	両河川は豊かな自然が残されており、野田川本川では希少な魚類及び鳥類の生息が確認されている。川本来の変化に富んだ水辺環境及び生態系の保全を行う必要がある。	河川改修時に、みお筋を確保することにより瀬や淵の保全を図るとともに、堤防全面に植生を行うことにより多様な生物が生息する河川環境の保全を図る。また、井堰により魚の生息域が分断される箇所においては、魚道整備等の検討を行う。	—	
	地形・地質			○	3
	物質循環（土砂移動）			○	3
	野生生物・絶滅危惧種			○	4
	生態系			○	4
	その他			—	—
生活環境	ユニバーサルデザイン	両河川は周辺のかんがいで用水として活用されているが、過去にも過剰な取水による大きな被害もなされている。また、野田川本川の河口は閉鎖性水域であるため、蘇海に流入する水質も良好な水質を保持する必要がある。	未整備区間の改修を実施することにより浸水被害の解消を図るとともに、現在の良好な水質・生態系への影響を最小限に抑えるように配慮する。現地発土については築堤等に活用し、処分量を抑制する。事業実施にあたっては、低騒音・低震動型の施工機械を採用する。	—	
	水環境・水循環			○	4
	大気環境			—	—
	土壌・地盤環境			○	3
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			—	—
	電磁波・電波・日照			—	—
	その他			—	—
地域個性・文化環境	景観	岩屋川は背後に田園地帯が広がり、川本来の変化に富んだ自然環境が保全されている。また加悦奥川は重要伝統的建造物群保存地区を断つことにより歴史建造物の町並みに配慮した河川整備が必要である。	岩屋川は、法面部を緩勾配の土羽構造とし自然植生の回復に努め、みお筋の確保により平常時の水深確保と植生等による変化に富んだ水際の創出により生物の生育環境への配慮を行う。また、加悦奥川は地域住民との意見交換等を行いつつ伝統的施設との調和を配慮した改修計画の策定を行う。	4	
	里山の保全			—	—
	地域の文化資産			○	3
	伝統的行事			—	—
	地域住民との協働			○	4
	その他			—	—